

アザレア音楽祭2022

企画

2022. 8. 20改訂版

1 アザレア音楽祭の基本理念

「地域に芸術家が遍在する幸せを求めること」

倉吉文化の礎を築いた「河本緑石」(現在の倉吉市福光出身)は、盛岡高農時代に、アザリア会をとおして宮沢賢治らと交流を深め、大いなる芸術文化の華を開かせました。大正9年4月に、倉吉文化の先人「中井金三氏」を中心とする絵画、文学、音楽など芸術全般にわたる実践や普及活動を推進する文化芸術集団「砂丘社」が誕生し、緑石もそれに参加し、文化活動を展開したのです。緑石亡き後も、夢は語り継がれ、昭和50年代になって倉吉文化団体協議会として夢は再び甦ることとなったのです。その仕掛け人こそが、故福井千秋氏(元倉吉市企画部長)であり、緑石の志を生涯追い求めた誇り高き獅子であったのです。福井氏の薫陶を受けた当時の私たち(計羽孝之、波田野頌二郎)は、理想を理想として歪な妥協をせず、論を論として拮抗させる弁証法を学んでいきました。それが、日本と言う風土に馴染まないことを承知しながらの活動は、ドン・キホーテの孤独を強いられるものでありました。「砂丘社創設の記」を書いた緑石は、「芸術を愛するというよりは芸術が生活の全部だといいたい。……最も深い芸術を生きる事は、最も人間らしく生きぬくことだ。」と記しています。そして、芸術行為を表現するのに、農作業を比喻として使い、芸術行為と農業は背反するものではなく、共に高い価値であると述べています。私たちは、緑石の友であった宮沢賢治の、「**農民芸術論**」の**実践とその補完**を目指した活動こそが、「砂丘社」活動の理念であったのではないかと推察しています。そして、その実践活動は、「優れた倉吉文化」を作り上げたいとの篤い願いは、徐々に理解され、支援され、文化活動の隆盛を渴望する市民の皆様によって大きく成長させていただきました。その活動の、中心となるのがアザレアのまち音楽祭であり、**精神的なバックボーン**として、緑石を接点として結ばれた「**アザリア**」(同人誌/宮沢賢治・河本緑石・保坂嘉内・小菅健吉/旧約聖書のダニエル書 440 に登場する勇気ある4人の賢者たち「ダニエル、ハナヌヤ、ミハヤエル」、そして「**アザルヤ**」の名前からの引用によるものだと推察)を**音楽祭の象徴**としたのです。そして「アザレア音楽祭」は、勇気ある賢者としての生き方を希求したいと思います。

私たちは誰もが、**芸術家としての、美しい生き方をすべきだ**と考えています。誰に認められようと認められまいと、その気にさえなれば、芸術を生きる生活は具現できることを実証して来ています。そして、私たちの住まう地方には、**優れた芸術家が遍在**し始めています。

美しい人生を歩むことを目指して**自己表現し、己の美意識を磨き続ける人が芸術家**であるのです。美しい人生を模索する生き方の実践者たる**芸術家が地域に遍在することによって、新しい価値観の転換が期待できる**のです。

そのためには市民一人一人が、自律した精神(市民主体)によって構築される芸術文化の在り方を、強固に認識する必要があります。最も強固で自律した市民とは**芸術家や専門家**と言われる創造主体となり得る方々です。**芸術家はなぜ強固な市民なのでしょう**か。生きるという体験や想念から新しい**価値意識や思想**を見出し、その**普遍化の追及が作品として社会に発信される**からなのです。それらは、「**人間存在の普遍化**」や「**人間存在の可能性**」を市民に提案し、そのコミュニティーの営みによって、より幸福な社会の形成がなされるきっかけとなるためです。そこに**芸術家が、地域に遍在して活動する意義**があり、市民の一人として存在できるのです。人間の生き様の問題は、豊かな文化と豊穡をもたらすコミュニティーを創り上げることで解決するかもしれません。その中心に、地域に遍在する芸術家たちが、常に何かを提言し続ける社会こそが、**成熟した社会の指針**となると信じています。

人間らしい感性の育成と、人間として生きるための創造性の発露は、河本緑石・宮沢賢治の夢見たことです。私たち

の生活に豊かな実りを創造する文化は、それを意識する私たちの心の中に存在するものです。それは私たちの真摯(美しく)に生きる活動の中に、確かに存在します。私たちには、既に、芸術を生きる生活が具現され始めています。そして、同じ地方に在住し、共に生活する表現者たちを敬愛し、その恵を共有し、共に育ち合うことを誓っています。

2 アザレア音楽祭の使命(ミッション)

① アザレア音楽祭によるまちづくり

文化の多様性と、重層性のある社会を認知する必要があります。文化の地方分権を確立するために、地域共同体(市民)の持つ表現する権利を満たす芸術空間を、私たちは手中にしなければなりません。**その空間を「アザレア音楽祭」と設定し、人と人との出会いの場である広場づくり(劇場づくり)・まちづくりを目指さなければならない**と考えています。そして、その**中心を倉吉パークスクエア(倉吉市・鳥取県の共同施設として2001年にオープン)**とし、本当の意味での文化拠点にすべきだと考えています。しかし、メイン施設である倉吉未来中心は、県立施設として県の文化振興財団が運営し、中部地域の文化拠点施設として機能させていません。(現在は貸館/倉吉市立の文化施設・ホール等は皆無のままです)私たちは、倉吉未来中心を中部地区の文化活動拠点施設として機能させたいのです。拠点施設として機能させるには、中部地域で活動する市民文化活動団体が十全に使いこなせる運営をすることです。この考え方には、政治的な根拠もあります。運営費の半額を負担する中部一市四町にとって、その血税支出に見合う特典があって然るべきだと考えるのです。施設利用の全体的平等性を主張する現在の運営は、施設そのものの成り立ちを全く考慮しない地域利用者個々の公平性を無視しているものと考えます。倉吉未来中心を、中部地区の芸術文化活動拠点とすることで、パークスクエアの**有効性の最大化**を図り、倉吉という地域を芸術文化が澎湃と湧き上がる社会に変えて行きたいと願っています。しかし、そして**音楽祭の効果(価値の指標)**として、次の三点を設定しています。

- 地域社会の自治力の増強
- 地域に住み続けたいというロイヤリティの高い市民の育成
- 外部からの訪問人口の増大

音楽祭によるまちづくりとは、**地域に芸術家が遍在**(地域社会の最適化として、人材資源とつながったソフトづくり)し、更に**優れた観客が存在**する事です。観客とは地域社会であり、美しいものを美しいと感じる社会の醸成こそが、芸術の持つ社会性であり、人間の感性を高める力となるのです。ですから、音楽祭の持つ意義が大変重要となるのです。音楽(本能)は繰り返し鑑賞(体験)したい芸術(幸福感)であるとの認識が、継続的な音楽祭の生活化の中で生まれつつあります。そして、豊かな芸術生活を享受するコミュニティが徐々に創られています。その事によって私たちは、**生きる事の意味**を再考し始めるのです。

短絡的に言えば、**音楽は哲学の一つの実践**です。哲学は「生きる」とは何かを問い続ける事です。ところが、現代人にとって最も重要な人生の目的が、「仕事」だと考える人が蔓延しています。果たして仕事は、人生にとって必須なものであろうかとの**疑問**を持つことが、重要だと考えます。勿論生命を維持し生きるためには、働いて賃金を得なければなりません。問題はその次なのです。なぜ働いて経済的に豊かになろうとするのか、その目的は、物質的にも精神的にも豊かさを享受し、潤いのある生活を手に入れるためだとしています。しかし、物質的には金で買えるだけの幸福は確実に得られますが、精神的な豊かさは金では買えず、その求め方を見失っているのが現代かも知れません。「山上の垂訓(キリストの言葉)」では、生きると言う事は労働だと考えないのです。また、ギリシャの市民にとって生きるとは、スコーレ(余暇)と言われる自由時間を豊かに過ごす事であったと言われます。アリストテレスは、「**幸福は余暇(スコーレ)にある**」と言い、「**余暇を得るがために仕事がある**」とまで言い切っています。しかし、私たちの社会では、人生の目的が「仕事」中心の会社共同体であり、そこで余った時間が「余暇」だとされるのです。しかし、人生の目的が「スコーレ(人生にとって積極的な時間)だとしたら、私たちの生活は一変する事になるのです。私たちの生きる社会で余暇を充実し、人間の尊厳にふさわしい美しい生き方をするこそが人生の全てになるのです。

アザレア音楽祭は、市民の生き方に何らかの影響を与えたいと願っています。私たちの求める音楽祭は、休息と娯楽を提供するだけのものではありません。Contemplation(凝視・熟視・瞑想・期待・熟考/沈思黙考)と呼ばれる「目に見えないが私たちにとって肝心なもの」「なくてはならない人生の拠り所」として存在する時間を提供する事だと考えています。その時間を生活の中心に据える生き方を提案し、人間復活の第一歩としたいのです。そこで初めて社会は、幸福感を充満させる可能性が広がるのです。そして、人間としての幸福感を醸成させなければならないと願っているのです。

② 客によって音楽祭は成長する

アザレア音楽祭は、クラシック音楽に特化した「生音」で演奏される音楽を提供するものです。「生身の動物的エネルギーを使って、人を感動させ、豊かな人間関係を作ること」が音楽祭の基本姿勢だと考えています。ですから、生音のエネルギーが十二分に伝達される環境として、演奏家と聴衆が近い位置にあるサロン・コンサートを中心に設定しているのです。

また、これまで、コンサートのあり方としてドグマ化されていた「演奏家の表現したい音楽を聴かせていただく」だけの姿勢では、クラシック音楽(純音楽)は衰退の一途を辿ることになるだろうと感じています。観客の求める作品を、求める形で提供することも、一つの方法だと思います。更にコンサートを作る側は、新しい価値観の提案をしながら**観客の満足**を通してのみ、上演する事の真の喜びを知るのであります。そして、演奏家も聴衆も成長して行きたいのです。

③アザレア音楽祭を音楽創造活動の拠点とします

県内に於ける音楽祭の大切なニーズは、**地域在住のアーティストが活躍**することです。そのチャンスは、地元アーティストの**トレーニング**であり、**表現活動**であり、やがて**ライフワークの場**とならなければなりません。音楽祭が創造活動の拠点となるためには、表現者たちに厳しく求められるものがあります。

その**第一**は、専門的なレベルとして「**演奏者自身の集中力の質を落とさない**」ことであり、その持続を可能にする環境づくりこそ、地方における純粋な文化活動に他ならないと考えます。

そして**第二**は、**芸術の質的水準**を問い続けることです。そして、優れた表現者が地域に存在するという状況が、今まさに生まれつつあります。アザレア音楽祭は、音楽創造活動の拠点として着実に成長させなければならないと考えています。

従って、趣味の段階に留まり、自己研鑽しない「自己満足」で終わる類いの音楽は、アザレア音楽祭で提供すべきではないと考えています。しかし、それらの音楽愛好家も、それなりに貴重ですので、別のチャンスに楽しまれることを願っています。

④クラシック音楽の敷居を下げることなく、音楽の真髄を受け取る聴衆の育成に努める

批評について

かつて美術評論家の針生一郎氏に出会ったことがあります。その折、中央と呼ばれる東京と、その外郭と蔑ろにされる地方文化の違いは、一体、何でしようかと問うたことがある。その時、針生氏は明快に「文化に弁証法が有るか無いかの違いだよ」と、一刀両断に捌いて見せた。差別的なニュアンスにも聞きとれる「中央と地方は文化が違うんだよ」との言の葉には、都会には評論家が存在し、論評・批判が可能だが、地方に評論家はいないし、その必要もない風土がある。地方での批評・批判はご法度に等しく、まるでヒットラーの芸術批評の禁止令を髣髴とさせる。だから評論家や批評する聴衆たちは、田舎には存在出来ない現実があるというものだった。この言葉には妙に納得させられ、心当たりが多々ある。

アマチュアの文化活動には葛藤がないと言われる。拮抗するものがあっても、やがて和気藹々となり、その活動からアンチは消える。ドラマの中でも消える。音楽の中でも消える。活動仲間の世界でもアンチは排斥され、同一化した社会に向かおうとする。だから、アマチュアの人生は面白くもなんともない、自己表現と称して己は物申すが、他人の言い分、つまり批評批判に聞く耳を持たない。論評だけでも批判されたと腹を立てる。本来、そこで生まれるべき議論が成立せず、「弁証法なんて、くそ喰らえ」となり、芸術は衰弱するが、誰も気が付かない。感情が支配する子供の領分が社会の通常だと考えられ、感性が思考の基軸である大人社会が忘れられている。

世の中には、社会に害を及ぼすような未熟な物の存在は多々ある。評論家によれば、悪い作品はこの世に存在しない方が良く決まっているという。あのシューマンだって、ただ心を弄ぶだけの「悪い作品」は、この世から排斥しなければならないと言っている。しかし、現代は衆愚が大手を振っているのが現実かも知れない。しかし、大衆が衆愚とは限らない。

文化活動がスポーツ活動にエンターテイメントとしても、哲学の実践としても負けている意味も現実も理解しないままの文化活動者は多い。決定的にスポーツ文化に負けているのではなかろうか。スポーツを楽しむとは、拮抗する者同士が全力で戦い、勝つと言うジンテーゼを見せてくれる。その葛藤を体験させてくれる。しかし、文化活動に本来拮抗するものがあるにもかかわらず、その姿を見せようとする習性がある。芸術の拮抗する仕組み(弁証法)を担保する活動こそが、本来あるべき姿だと誰でも知っているが、己の生き方には無いものと錯覚している。そんな中から、徐々にではあるが、本来の文化活動として素晴らしい芸術作品を生み出している団体もあるが、まだまだ一部にとどまっている。

3 アザレア音楽祭・4つの特徴

- ① 地域在住及び地元出身の演奏家と、**喜びを共有**する音楽祭
 - ・ 出演者は鳥取県を中心とする周辺文化圏内全域、及び鳥取県出身のアーティストによる。
 - ・ 聴衆は鳥取県を中心として周辺他県全域。
- ② **地元企業の支援**(スポンサー)を得て、各コンサートを成立させる
 - ・ 企業より浄財を得て、音楽祭基金とする。
 - ・ 県民個人から寄せられる協賛金は、音楽祭運営経費として運用する。
- ③ 音楽祭が1ヶ月半に及ぶ**ロングラン**

・毎年5月第2日曜日から6月最終日曜日と設定する。コンサート数は20～30公演程度。

④ 鳥取県を代表する**県民のための音楽祭**

・「鳥取県の誇り100選」に選定されている。

⑤ 優れた音楽活動を顕彰する「アザレア音楽賞」の制定。

4 アザレア音楽祭を支える四つの柱

- ① **地元芸術家の育成**⇒山陰に在住する音楽家を自立した芸術家として対応することによって、地域社会の豊かな文化を創造し、新しいコミュニティーを牽引する人材を育成。
- ② **プロデューサーの育成**⇒アザレア音楽祭独自の個性あるソフト作り（企画）を目指す。また、ホールを使いこなせる、運用できる、パフォーマンスを最大化できる人材の育成。
- ③ **パトローネの掘り起こし**⇒ボランティアな市民意識を醸成し、もう一つの市民社会(地域コミュニティ)を作り出す活動。やがて、それは最大の観客作りとして効果を現すことになる。
- ④ 地域から発信する**地域のための音楽祭**

5 アザレア音楽祭運営のコンセプトと取り組み

○アザレア音楽祭アーツマネジメントの基本

- ① **芸術**が地域社会の生活基盤となるべく、啓発・紹介すること。
- ③ 地元芸術家の**活動を保障**し、創造活動を行なう**場を提供**すること。
- ④ 地域社会の持つ「**芸術を作り出す潜在能力(鑑賞能力含)**」の**向上を図る**こと。

○アザレア音楽祭の具体的な取り組み

① コンサート会場の多様化

コンサートホールに限定せず、**音楽会として使える場所**（音響的に良い）を積極的に探し使用する。

- ・コンサートホール（県立倉吉未来中心大・小ホール）を中心とする。
- ・ホール以外でのコンサート（倉吉博物館玄関ロビー・パープルタウン広場・ビーワイホール）
- ・サロンコンサート(倉吉交流プラザ視聴覚ホール)

地域在住アーティストの表現の場

- ・演奏活動をライフワークとする**地域在住のアーティストを、継続**して招聘する。⇒継続演奏家の認定
- ・若い演奏家に**チャンスの拡大**を図る。⇒ミニ・リサイタル・リレー
- ・地元出身演奏家の里帰り公演の推進を図る。⇒オープニング・コンサートのソリスト、サロン出演者

② 他団体との協働の場

- ・鳥取オペラ協会と協賛するオペラ公演やその他の事業展開を図る。

③ 音楽祭独自の舞台芸術の創造（フランチャイズした演奏団体を持つ）

・**アザレア室内アンサンブル Chamber Ensemble AZALEA**

・**アザレア室内合奏団 Chamber Ensemble AZALEA**

アザレア音楽祭に参加する弦楽奏者を中心として、バロックスタイルのオーケストラを編成する。

・**アザレア弦楽四重奏団**(1990年度以来実施している)

地方にあって弦楽四重奏は、めったに聴くチャンスが無く、毎年一回のコンサートを設定し、市民に提供する。地元作曲家の新作等、音楽祭としての独自性を持たせる。プログラムには、長期展望を持った戦略的な選曲を持つ事とする。

・**アザレア・ミュージックファクトリー**(2007年度より実施・現在は活動休止中)

サロン・コンサートのために編成された、ヴァイオリン、フルート、ファゴット、ピアノのアンサンブル。プログラムには、長期展望を持った戦略的な選曲を持つ事とする。オリジナル作品の恒例化を狙うものとする。

・**アザレア・サロン・オペラ**の設置(2007年度より実施。2007年度はメロッティ「アマールと夜の訪問者」、2008年度はメロッティ「電話」、2009年度はモーツァルト「バスティアンとバスティエンヌ」の公演。2010年度は「イソップ三部作」より「羊飼いと狼」、2011年度は同じく「イソップ三部作」より「北風と太陽」等を公演してきている。2013年度は、「河童譚」、そして2014年度はメロッティの「アマールと夜の訪問者」を鳥取オペラ協会と提携し、室内オペラの演奏会形式の公演。2017年度は「ヘンゼルとグレーテル」縮小版を公演した。2020年度はペルゴレージの「奥様女中」をオープニング・コンサートに想定していたが、コロナ過のため中止した。近い将来、公演の予定。

・アザレア合唱団の設置の模索(継続検討)

鳥取オペラ協会と提携し、室内合唱団による公演の可能性を探る。
鳥取オペラ協会の自主事業の参加も考慮する。

④ アザレア音楽祭「第6回アザレア音楽賞(AZALEA MUSIC PRAISE BIENNAL)」の設定(2022年度該当)

・趣旨 山陰に遍在する、優れた演奏家を招聘し、倉吉市民・鳥取県民に紹介すると共に、喜びを共有するアザレア音楽祭を40年間にわたって運営してきました。その中で多くの優れた演奏家たちが育ち、私たちの地域に音楽家が遍在する時代となりました。そこで、アザレア音楽祭に貢献していただいた演奏家及び活動者を対象とした賞を制定し、顕彰したいと思います。

・顕彰内容①顕彰期日 2022年5月8日(日) オープニング・コンサート式典於

②顕彰の内容 **アザレア音楽賞** ビエンナーレ(2年毎)顕彰とする。

副賞(丸雅紀賞・浜路叔子賞)(各賞金五万円)=丸・浜路両氏の寄付金にて運用

・受賞者の決定

推薦基準/アザレア音楽祭に運営参加(運営に尽力)、又は出演し、優れた音楽活動の実績(出演回数の多さ)がある者。

推薦の方法/推薦基準をクリアした者の中から、被推薦者2名を選定する。その推薦を元に、ディレクターが最終決定する。

財源/アザレア音楽祭基金(寄付による積立金等800,000円が原資)

6 アザレア音楽祭運営の改革

□アザレア音楽祭2022に向けての改革の骨子

38年を超える長きにわたるアザレア音楽祭の実績をふまえ、更なる拡充を目指し、市民に愛好される音楽祭を共に作るため、市民 **誰でもが運営に参加**できる「アザレア音楽祭」にしていきます。

(1) 倉吉文化団体協議会の舞台分野及び倉吉未来中心が音楽祭経営を共同する主体になることを目指す。

主催団体は「アザレア音楽祭実行委員会」とします。そして、協力団体として倉吉未来中心と共同します。協賛団体「倉吉市・倉吉市教育委員会」は従来どおり変動しません。アザレア音楽祭を運営する組織を一般市民より募り、積極的なご参加を頂き、県民が結集する芸術祭として着実に成長させたいと願っています。

(2) 実行委員会が更に開かれた組織に

現在の実行委員会は、主に文化活動者で構成していますが、今後は様々な市民の参加をお願いし、芸術文化活動の市民化を図りたいと考えます。様々なジャンルより、多くの市民の皆様に参加頂き、幅広い意見集約と音楽祭の更なる振興を図りたいと願っています。⇒具体的な広報活動を、年間を通じて行う。

※必要な人材

アザレア音楽祭の経営を考える中で、一番大切なものは事業展開する人材の確保です。その人材に必要なものとして、次のように設定しています。(活動しながら身に付けていただきたい事として)

- | | | |
|---------------|------------------|-----------|
| ①物事をやると決意できる人 | ②目標・目的を持つことの出来る人 | ③段取りを考える人 |
| ④成功意識が持てる人 | ⑤仕事を貫徹する人 | ⑥感動体験を持つ人 |

音楽祭を企画実行する人材に必要なもの(エンパワメント指導の必要/人間が持つ本来の(潜在)能力を引き出して、自分自身の生き方を自分で決めていく力を養い、特に対人関係能力を、社会生活を営む上で支障のないレベル・より望ましいレベルまで向上させなければならぬとする)は、何よりも幸福感の追求を喜びとする事です。幸福の要因は、満足の行く仕事に従事することです。マイナーな出来事や気分に至ることを、私たちは心して避けなければなりません。そして、豊かなネットワークを築くこと、感謝の気持ちを持つこと、間違いを許すことなどの人間性が必要です。そして最も重要なのが、「アザレア音楽祭に誇りと自信を持つ」ことであり、広く市民の皆さんに紹介し、音楽祭の素晴らしさを啓発することです。そして、ある意味での楽観主義が大切だと考えるものです。

☆実行委員を常時募集

アザレア音楽祭に参加協力していただける方なら、どなたでも、何処にお住まいの方でも実行委員になっていただけます。人数に制限はありません。異論反論 OBJECTION が存在できる事を願っています。(実行委員会は毎月第三金曜日 19:30、会場は倉吉市文化活動センターにて開催しています。

希望される方は事務局までお申し出ください。TEL&fax 0858-23-6095

(3) アザレア音楽祭は山陰を網羅する芸術祭に拡大

アザレア音楽祭の出演者は、鳥取県全域及び島根県にまで拡大して選択した、優れた演奏家たちなのです。私たちの住まう山陰にも、こんなに素晴らしい芸術家が在住していたのかと驚きを持って賞賛され始めています。私たちと同じ

地域に住み、同じ生活共同体で暮らす芸術家の存在は、地域の宝物です。大切に見守り、支援し、豊かに育て上げていくのは、その芸術を愛好する、聴衆たる市民なのです。

また、近年の鑑賞者の要望として、中央で活躍する演奏家の招聘を望む声が高い。その意に沿って、鳥取県出身演奏家、新進気鋭の優れた演奏家を起用するコンサート企画を順次立案検討します。

(4) 内部評価委員制度の導入(現在休止中)

内部評価委員の意義

内部評価は、「アザレア音楽祭」企画書に明記されている音楽祭ミッションを確実に実施するためです。音楽祭ミッションは「音楽創造活動の拠点」とし、具体的に地元アーティストのトレーニング、表現活動、ライフワークの場となることが必須だとしています。その活動を確実にするために「演奏者自身の集中力の質を落とさない」「芸術の質的水準を問い続ける」、この2点を担保することが大切です。そのために内部評価が欠かせないと考えたため、ディレクターが自信をもって「提供する音楽」が、音楽祭の使命をクリアしていることを証明するために厳正な評価が必要だと考えます。「アザレア音楽祭」に参加しているアーティストは、批評を受けて自己研鑽し、己の芸術を高めていくのは当然であり、音楽祭の演奏レベルを保持しています。

これらの意図を十分踏まえて内部評価出来る力量を持った方を選定し、音楽祭ディレクターの責任において評価していただきます。すなわち、ディレクターが自信を持って送り出した「作品」を、内部評価委員がその「作品」を受け止めて批評し、その「批評」を、制作者であるディレクターが再び受け止め、場合によっては、反論し、反省し、市民に対して責任を果たすという制度です。(現在は、地方での批評・批判はご法度に等しく、優れた評論であっても、受け入れられない現実があり、内部評価を引き受けていただける方が無いのが現状。) 地方の文化事情にとらわれず、毅然たる論評を望む声がありますので、インターネット・サイトを活用した執筆依頼を検討します。

アンケート・コメントについて

アンケート調査は、聴衆の皆様のご意向を音楽祭に反映させ、顧客満足度を向上させる目的で行っています。アンケート・コメントの公開は、ホームページを開設した2004年度から開始しています。そして翌年(2005年)から寄せられるコメントに対して、音楽祭の立場で【ディレクターの回答】を掲載し、現在に至っています。

□具体的な取り組み

① ネットワークの形成(県内及び県外とのネット化への模索)

- (ア) 他団体事業との連携(ピアノ・声楽・管弦打楽器オーディション入賞者の音楽祭への起用)
- (イ) 他地区の音楽祭と、ソフトの共有化(アザレア音楽祭出演者を起用した演奏ツアーのプロダクションの創設)を模索する。(検討中)
- (ウ) アザレア音楽祭プロデュース部門を設定する。(検討中)
- (エ) 倉吉未来中心と連携事業を展開する。

② 観客の創造(県内及び県外に向けての聴衆化への模索)

- (1) 音楽祭サポーターの醸成活動(音楽鑑賞基礎講座の開設=例会)(検討中)
- (2) 市内ホテルとの共催(現在実施中)
- (3) 音楽鑑賞講座を市内喫茶店の営業時間外に設定(例/茶房「混智恵流都」)(検討中)
- (4) 音楽祭会員制度の導入=協賛との関連を検討中
- (5) 青少年への啓発活動の実施

(6) 音楽祭出演アーティストとの交流サロン創設⇒検討中

市内喫茶店「混智恵流都」を使っのトーク&プレイ(パーソナリティーとして演奏家を招聘)

- (7) 音楽祭情報のサロン設定=喫茶店「混智恵留都」及び「倉吉市立図書館」に、2003年度より記録ライブラリーを設置している。

市内の喫茶店をアザレア音楽祭情報拠点と設定し、これまでのレコーディング・ライブラリーを常備している。

☆倉吉市文化活動センター内にライブラリーを設置

☆リフレ・ミニ・コンサートの協賛⇒毎月1日と15日に開催(開催日が休日の場合は14:00～、その他は18:30～)(2019年度より定期開催していたが、2020.2021年度はコロナ感染症予防のため中止した。)

☆広報拠点の拡大(検討中)

- (8) 音楽祭の知名度をあげるために情報拠点を公募する⇒HPで募集

(9) 市民生活の情報交換サロンを活用する

次の民間施設に音楽祭パンフレットとダイジェストCDを置く。

美容院、理髪店、レストラン、居酒屋、喫茶店、ホテル、医院・病院、公民館、図書館、観光案内所、金融機関、その他。

◎良い聴衆を育てる手だて

- (1) ジャーナリズムの力を活用する（マスコミ関係者の委員会への参加／在籍依頼）
- (2) 子どもを巻き込む（パープル・タウン・コンサートに出演した子供たちにチケットプレゼント）日曜日開催の子ども対象のプログラムによるコンサートの開催。
- (3) 市民の代弁者である**市会議員への啓発**（運営組織に入っただく／既に議員の参加あり）
- (4) まず、市民（県民）に音楽祭を体験していただく工夫と、その素晴らしさを知っていただく活動（有線テレビと連携し、音楽会ソフトの提供。**CD製作**して、各方面に配布する活動＝行政との協働が望ましい）検討中

③ 音楽祭経営戦略（トータルコストの削減を視野に入れる）⇒利益を上げることも必要（補助金からの脱却）

(1) マーケティング戦略の必要

マーケティングの基本

音楽祭で何を求めるか

- 1)ディマンド(需要・要求)分析⇒何を求めているかを具体的に知ること
- 2)ニーズ(必要)分析⇒ニーズリサーチ⇒必要だが潜在するものの掘り起こし手段
- 3)芸術の敷居を下げることなく4Cのマーケティングの実施

4つのCは①コミュニケーション②コミットメント③クリエイション④ケア

市民のスタンスは何か

- 1)腰掛市民⇒地域社会に疎い市民⇒この市民の変革が今後の課題
- 2)居留市民⇒地域に貢献する意思のない市民、地域活動に参加しない市民
- 3)定着定住市民⇒ロイヤリティの高い市民⇒市民のプライドを磨く
- 4)流入市民⇒他地区から鑑賞に訪れるロイヤリティの高い聴衆

(2) 接客マニュアルの設定とコンサートスタッフ対象の**セミナーテキストの配布**

接客マニュアルと接客マニュアルセミナー・テキストはHPで公開

(3) **観客のモニタリング**（アンケート調査の実施）2004年度より実施現在に至る。⇒HPで公開

(4) **未観客のモニタリング**(アンケート調査の実施)検討中⇒市報挟み込み文書等を使っての情報収集 アンケート回答者にオープニング・コンサートのチケット配布等を検討する。

(5) **多様なプログラム**（教育プログラム＝出演者の学校公演プログラムの提供、アウトリーチ活動＝管楽器奏者の公開レッスン）検討中

観客の好み（聴衆の聞きたい曲をプログラムに必ず入れる）に合わせたプログラムから、順次個性的なプログラムに移行させる。アンケート調査実施は2004年度より実施し現在に至る。

(6) **地域コミュニティの性格**、芸術の好みの把握⇒芸術を愛好する顧客リストの把握

・住民を芸術活動に参加していただくチャンスの確保＝県文連加入団体及び鳥取県在住の芸術文化活動者の、表現の場として提供する。

・質の高い芸術に触れるチャンスの設定＝プロ奏者の導入等、予算的な裏づけを含んで今後の問題として検討する。

(7) **音楽祭入場料**について、適正に設定するための顧客アンケート調査の実施。芸術を愛好する顧客リストの把握

◎最も大切なことは、ベストでなくても常にベターな「質の良いコンサート」（レパートリー・プログラム）を製作する必要がある。人々を魅了するのは感動的な質の良さであり、常連客（リピーター・カスタマー）を作り出すことになる。そして、スポンサーとしての**地元ビジネス・オーナー**や、現在協賛していただいている自治体との密接な協力関係（行政の文化政策と連動させる）を築くことが最重要となる。→**交流サロンへのゲスト参加依頼等**。

更に、地域社会から「芸術」の文化的・社会的・財政的な立場の重要性を理解していただくために**産業界経済界、商工会、政治組織等をパートナー**にすべきである。（顧問制度の導入など）そして、音楽祭の経済的安定を図ることが大切である。（現在検討中）

④ 能動的な運営への転換

(1)**足でかせぐ運営**への移行（待ちの姿勢から、積極的にこちらから打って出る姿勢への転換）＝実行委員が自分の役割を把握して、主体的に行動すること。集客マニュアルの学習会を行う。

集客マニュアル・プラン

アザレア音楽祭の集客力は、大ホール公演がホール・キャパを満たしていない。その原因の分析が必要である。○まず、**集客という営業行為を甘く見ていた**のではないかと言う反省がある。実行委員会の委員ではあるが、集客は自分の仕事ではないと考えているきらいがある。実行委員の中の、沢山ある仕事の一部でしかないとの誤解がある。**実行委員として最も重要な任務が集客**であり、その全てだとの再認識が必要である。

もともと、実行委員会を組織し、実行委員を引き受けた以上、**集客は全う**させるのが文化活動者の**責務**だと言える。だから、**集客力は組織力**そのものであり、**実行委員を請け負った人間の實力**そのものとも言える。

▽「素晴らしい内容のコンサートを企画しても、想定する観客が集まらない事は、単純に実行委員会の集客力の無さが露呈しているだけとの認識が必要である。

▽集客に失敗した実行委員の弁明の大半は、

- ①本業が忙しくて集客に手が回らなかった
- ②集客開始が遅れた
- ③パンフレット製作が遅れたため…などなど、色々な理由がある。

▽弁解を並べても今後の集客力向上につながる訳ではない。前年の体験をもとに、少しずつノウハウを貯めていくべきである。

▽**集客力という能力**は、集客成功のために**然るべき手を打ち続ける能力**をいうのです。

そのためには、運営するコンサートの担当委員組織を作り、集客するコンサート目標を明確にする。

現在の運営担当者制度でいくか、再編し直すかの検討が必要。

「然るべき手」について

心構えと技術の両面から考える。

▽実行委員にとっての集客力向上の心構え

1. **集客は余分な仕事ではない。一番大切な仕事**と心得るべし。
2. イベントの集客は協力者不在では成功しない。一人で抱え込むのではなく、**集客の初期段階で協力者との信頼関係**を作るべし。
3. **集客の状況**は、小まめに**報告・連絡・相談**すべし。特に協力者に対しては逐一報告を入れることや、参加申込みしてくれたお客にも協力依頼するなど、**集客への情熱を周囲に発信**させ続けるべし。
4. 取らぬ狸の**皮算用をしない**こと。妙な安心感をもつと、集客行動が怠慢になることがある。
5. 実行委員としての**プライド保持**のためにも、少なくとも一週間前には、想定したチケットの「完売!」、「満席御礼!」、「キャンセル待ち」、「次回優先案内受付」など、実際に満席にして集客を打ち切るべし。

▽実行委員にとっての集客力向上のテクニック

1. **集客計画**を作るべし
 - ①日割りの**集客目標を決め**、誤差を毎日チェックする
 - ②コンサート開催日の**一週間前**には**集客目標を達成**する計画を作る。
2. コンサート参加(公演参加)の**メリットを明確**にすべし
このコンサートに参加すると、
 - ①**誰**にとって
 - ②どのような**メリット**があるか
 - ③また**なぜそう言えるのか**をまとめて紙に書くべし。これを具体的に書くことができれば、おのずと対象者や協力者にそれを伝えやすくなる。これが、漠然としていたら相手も理解してくれない。

当然、ホームページやチラシでもそれを明確にする。公演の出演者がどのような内容のパフォーマンスをするのか(レジメ)も可能な限り具体的に書く。(パンフレットにディレクターが記載しているものをベースとし、委員各自の推薦事項を作っておくこと。)

3. **始動を早めるべし**

- ①始動が早すぎて失敗することなどない。始動が早ければそれだけ告知期間が長くなる訳だから集客に有利となる。特に先々まで予定が入りやすいサラリーマンや市民がメインターゲットの場合、最低でも二ヶ月前には集客を始めないと先約が入ってしまう。
- ②告知が早いだけでなく、実際上の参加申込み受付も早めるべし。告知だけして、「集客受付はまた後日」では意味がない。告知したその場でクロージングすべし。

4. 露出計画・告知手段を多様化する

- ①アザレア音楽祭のホームページでの告知
- ②協力者のメルマガやブログでの告知
- ③チラシ配布
- ④有料の広告宣伝（雑誌や新聞掲載）
- ⑤無料のパブリシティ（マスコミ、ミニコミ、官公庁）など、デジタルとアナログを使い分けることと、露出媒体の多様化で一人でも多くのユニークユーザーに告知する。

5. 熱意ある告知

アザレア音楽祭の集客効果について考える。各実行委員自身がそのイベントをどれだけすごいかと思えるかによって、紹介文章の熱に差が出る。自分も参加したいほどすごいコンサートの場合は、それが相手にも伝わるので、配信部数の0.3%（100人）近い集客が一回の配信で可能になる場合もある。また、義理で告知協力するだけならば、0.01%（3人）程度だろう。告知に同じ時間を使っても何十倍もの差がでるといふことだ。以上のパーセンテージ×告知回数なのだが、二度目三度目の告知になると、それも徐々に下がっていきと考えよう。したがって、自分以外のメルマガ作者やブロガーに告知協力をお願いするときには、真剣にその協力者に売り込まねばならない。

以上が、今後のアザレア音楽祭を成功に導く鍵である。

(2)静から動への転換＝音楽祭の期間中は事務局に常に誰かがいる体制をつくる。いつ電話があっても対応できる仕組みを実施している。（現在事務局が対応／0858-23-6095）

実行委員の車に音楽祭のステッカーを貼るなどの活動。（2007年度から実施）

- (3)チケットの買い易さの工夫＝一律料金の設定。電話受付、宅配の仕組み作りは検討中。
- (4)サロン・コンサートに一部指定席制度を作る。（現在利用者がなく、休止状態）
- (5)多くの地域への広報活動→他町村へ広報依頼。検討中。（検討中⇒通信費の拡大がネック）
- (6)音楽祭の協力者（サポーター）の募集（行政との協働として広報協力を得る）。

継続的なポスター掲示協力者の依頼。検討中。

- (7)スポンサーとしての地元ビジネス・オーナーとの協働（スポンサーの拡大）。（対応⇒企業人に依頼）
- (8)サロン・コンサート毎に、集客担当者（運営担当団体）を決める。

⑤ 広報営業の組織化

- (1)広報・マスコミ対応→日本海テレビとの共催又は協賛によるテレビスポットCM検討中。
- (2)チケット販売の仕組み作り（研究検討中）。
- (3)支援企業の拡大→ダイレクトメールと面談による依頼（今年度実施予定）。（継続実施予定）
- (4)協賛市民の拡充→アンケート等により、アザレア音楽祭の顧客作り（2004年度より実行開始。継続実施）協賛者の拡大⇒現在200人を⇒250人まで拡大（年間を通じて取り組む）
- (5)市内ロータリーの陸橋に横断幕を設置（倉吉市の協賛で可能となる）2005年度より実施。

⑥ アザレア音楽祭運用資金調達のためのファンドの設定（音楽祭始動初期の資金運用のため）

- ・ パトローネ型の資金調達（ノーリスク・アーツリターン型）
基本的にファンドは取り崩さないためノーリスク。利子等のリターンは無い代わりに音楽祭全てがフリーとなる特典をつける。
- ・ 総額200万円の公募（現在0口）
- ・ 一口5万円で40口のみ
- ・ 期限一年（4/1～翌年3/31）

⑤ 音楽祭組織

ディレクター制

アート・ディレクター（芸術監督）は、アザレア音楽祭の芸術的方針を出す芸術家の責任者であり、なおかつ音楽祭全体の運営を決めていく役割を持つもの。

ディレクター

Artistic Director（芸術監督）

Managing Director（支配人）

- ・ 専門部
企画製作部 広報マーケティング部 運営管理部
- ・ 内部評価委員制度（2008年度試験的運用し、2009年度より全面的に運用）現在休止中

7 組織

音楽祭の運営組織は、アザレア音楽祭企画実行委員会がこれに当る。音楽祭運営に協力していただける市民の皆さんを**公募**し、意欲的な人材を掘り起こして、**積極的な運営組織体**とする。実行委員会会長には、倉吉文化団体協議会会員の中から適任者が当たるものとする。芸術監督は、音楽の専門家でありマネジメントのスペシャリストを充てるものとする。事務局長及び各部長は、ディレクターが選定する。任期は基本的に一年とし、再選は妨げない。(詳細は実行委員会規約による)

2020年度体制の運営組織

アザレア音楽祭実行委員会



【広報マーケティング部 ホームページ担当】⇒鈴木百百子
【広報マーケティング部 メルマガ担当】⇒鈴木百百子
【アンケート調査及びその対応】⇒三上大輔・計羽孝之



協力委員(2022 年度未定)

松本好生・中村絹子・村田江里・平信孝篤・谷口雅俊・栗原恵実・稲毛麻紀・太田勝

協賛団体

倉吉市・倉吉市教育委員会

協力団体

鳥取オペラ協会／NPO法人花本美雄文化振興会／鳥取短期大学／倉吉未来中心／打吹音楽倶楽部ブレーメン／女声コーラス「円」／ザ・ラニアル・コーラス／コール・ウィンドミル／コーラス・はわい／倉吉女声合唱団／混声合唱団「みお」／コールげんげ／合唱団こさじ／明倫小学校合唱団／成徳小学校合唱団

8 運営体制

アザレア音楽祭**企画実行委員会**は、ディレクター及び**実行委員**（企画製作部、運営管理部、マーケティング部）で構成し、**出演者の決定、予算の策定**など基本的な作業を行う。

更に、企画段階、及び音楽祭実施段階で必要に応じてご協力願う「**協力委員**」制度を設ける。

◎運営方法

- ①音楽祭の**実質的な運営指揮はアート・ディレクター**の責任で実施する。
- ②予算は、市内外の企業及び市民の皆様からの**協賛金がベース**となり、**各種支援財団及び支援団体よりの助成金**とする。

市民協賛金アザレア音楽祭支援システムを拡大変更（現在継続検討中）

従来のスポンサー、協賛者制度はそのまま継続するが、新たにパートナー制を導入し、支援組織を拡大する検討中。

スポンサー⇒Arts Sponsor=50,000円 協賛者⇒Arts Supporter=5,000円

大口協賛金（一口5万円）を頂いた企業名は**スポンサー**として、特定のコンサートの支援者として張り付ける。市民からの協賛金（一口5,000円）をいただいたお名前**サポーター**として、パンフレットに掲載する。それぞれの特典として、

スポンサー、サポーターそれぞれに、全てのコンサートに使える**パスカード**を配布。**パートナー**には、オープニングのチケットを配布します。

市議会議員・県議会議員等公職を有する市政リーダーそれぞれの方にパスカードを配布し、音楽祭の認識と、政治的な支援理解を深めていただくものとする。

- ② **実行委員会**は、令和3年8月にスタートする。毎月第3金曜日に会合を持ち企画を詰める。企画原案は、**準備会**（毎週水曜日10:30）にて作成し、それをたたき台とする。更に各委員からの提案、持ち込み企画等について検討を重ね、**10月の実行委員会**で**出演者を最終決定**する。

開催日・会場等については、運営管理部が原案を作り、委員会が承認した案を持って出演者と交渉して決定する。

- ③ 時進行で、広報マーケティング部は、ポスター、パンフレット等の印刷物の準備に取り掛かる。
- ④ 種文化支援財団に対し、**助成金の申請**（11月末締め切り）をする。運営管理部が担当（支援は事務局）

9 実施内容

この音楽祭のコンセプトは、前述したとおり、**地元在住の芸術家（主に音楽）**を育成し、私たちのまちの音楽家として敬愛し、共に音楽の喜びを分かち合える豊かな生活環境を作り出すこと。アザレア音楽祭では、純粋に地元演奏家としての絞るが、可能な限りプロフェッショナルの演奏家も招聘する。

◎出演者の選定について

- ① 実行委員会にて、**出演候補者推薦委員の意見を集約**する。（出演希望者、実行委員推薦、聴衆推薦等含む）

② 実行委員会にて、**出演候補者を選定**。毎年継続出演者については、スケジュールを優先する。

③ 実行委員会の責任において**出演交渉**を行い、正式決定する。

※出演者の選定について、基本的に実行委員の推薦によるが、コンサート・アンケートやホームページ等で聴衆からの推薦があれば、選考会の遡上にあげる。倉吉市を中心とする**中部地区在住の演奏家**については、**出演したいとの意思があれば、どなたでも出演することが出来る**。

実行委員の推薦を受け、出演候補者を実行委員会で討議し、**最終的にアート・ディレクターが責任を持って決定**する。他地区からの演奏希望者は、実際の演奏力をディレクターが判断して委員会に報告し、その賛同を得て決定する。演奏レベルが一定以上であるかどうかの判断は、委員会での合意を必要とする。更に、コンサート・プログラムの決定については、**アート・ディレクターのチェック**を通し、その責任の所在を明確化する。

出演者には、演奏家としての自立精神を持っていただくために**ギャラ**（一律35,000円／実態により例外あり）を支払う。基本的に山陰両県内を中心とした地域に在住している音楽家で、出演したいとの意志があり、一定以上（有料コンサートとして堪えられるかどうか）の力量があると実行委員会が認めた演奏家。

鳥取県出身のアーティストの招聘については、プロである場合、基本的に**ボランティア**とする。しかし、旅費の実費+ギャラ=5万円を支払うものとする。

◎コンサート運営について

①音楽祭のコンサート様式は、**ホール・コンサート**と**サロン・コンサート**とする。

・ホール・コンサートでは、実行委員会全員及び協力団体が担当して運営に当たる。

・サロン・コンサートでは、**コンサート毎に担当実行委員を決め、その指導のもと協力団体が運営を担当する**（コンサート運営マニュアルの通り）。

② ホール・コンサートは基本的に**日曜日又は祝祭日の14時開催**とする。サロンは、**平日の19時30分開演**とする。

サロンにおいては、一部と二部の間に10～15分の休憩を入れて、談話時間を設定する。

③ **音楽祭企画内で発生する各種著作権は、すべてアザレア音楽祭実行委員会に帰属する。**

・演奏会企画案 ・演奏会の写真及び動画 ・演奏の録音及びCD化権

10 音楽祭運営スケジュール

2021年

8. 20⇒アザレア音楽祭2022第1回実行委員会

◎実行委員会新組織の役員決定

○アザレア室内合奏団2022の素案提示及び検討・決定
スポンサー及び協賛の募集開始。

9. 17⇒アザレア音楽祭2022第2回企画実行委員会

オープニング・コンサート企画の確定

サロン・コンサート出演者検討（推薦）

ホームページに企画書を掲載。適時最新版に更新する。

10. 22⇒アザレア音楽祭2022第3回企画実行委員会

各専門部の独自スケジュールの策定

音楽祭アーティストの決定。予算書の策定。

11. 19⇒アザレア音楽祭2022第4回企画実行委員会

コンサート期日の最終決定

アザレア音楽祭情報サロンの設置。サロン企画の最終的な詰めと会場借用予約（会場の決定）

予算案の決定。各種財団助成申請書提出。

第一次音楽祭広報活動。印刷物の企画制作依頼。

交流サロンのパーソナリティー決定

12. 17⇒アザレア音楽祭2022第5回企画実行委員会

◎ポスターのサンプル完成、公演日程の確定。

2022年

1. 21⇒アザレア音楽祭2022第6回企画実行委員会

第二次音楽祭広報活動（チラシ配布）、パンフレットの全県下への配布。トリカルネット等の情報誌への掲載依頼。記者発表。

2. 18⇒アザレア音楽祭2022第7回企画実行委員会
チケット発売開始。
3. 18⇒アザレアのまち音楽祭2022第8回企画実行委員会
ポスター配布
4. 15⇒アザレアのまち音楽祭2022第9回企画実行委員会
各種コンサート開催打ち合わせ
5. 8⇒アザレア音楽祭2022オープニング・コンサート
～ 各種サロン・コンサート公演実施
5. 20⇒アザレア音楽祭2022第10回企画実行委員会
6. 17⇒アザレア音楽祭2022第11回企画実行委員会
6. 19⇒アザレア音楽祭2022ファイナル・コンサート
7. 22⇒アザレア音楽祭2022第12回企画実行委員会

11 利用施設

倉吉未来中心大ホール

倉吉博物館玄関ホール

ビーワイヨシダホール

倉吉市交流プラザ視聴覚ホール

パープルタウン中央広場

12 具体的コンサート企画

☆ホール・コンサート

①5/8(日) 13:45～ オープニング・コンサート (倉吉未来中心大ホール)

開会式典

主催者あいさつ アザレア音楽祭 会長 計羽孝之
来賓祝辞 倉吉市長 石田耕太郎 様

アザレア音楽祭 2022

アザレア室内合奏団コンサート

音楽監督 辺見康孝

第一部

□エルガー作曲

弦楽合奏のための「愛のあいさつ」

□チャイコフスキー作曲

弦楽セレナーデ ハ長調 作品48

第二部

□モーツァルト作曲

フルートとハープのための協奏曲 ハ長調 K.299 全楽章

□モーツァルト作曲

ホルン協奏曲第4番 変ホ長調 K.495 全楽章

④ ファイナル・コンサート (倉吉未来中心大ホール) 継続事業

6/19(日) 14:00～

開会式典とアザレア歌のコンサート (合唱と独唱)

コンサート企画

第1部 合唱の祭典

赤碓女声コーラス「まどか」/ザ・ラニアル・コーラス/コール・ウインドミル/合唱団こさじ

／コーラス・はわい／三朝コールげんげ／混声合唱団「みお」／倉吉女声合唱団／合唱団わかば
／成徳小学校合唱団／明倫小学校合唱団

第2部 声楽コンサート

未定

⑤パープルタウン・コンサート（吹奏楽と民謡）（中部地区中学生吹奏楽と民謡鈴の音会）**継続事業**

⑤ サロン・コンサート出演依頼候補者想定

邦楽

中野 隆(尺八)

声楽

寺内智子(ソプラノ) 中原美幸(ソプラノ) 鶴崎千晴(メゾソプラノ) 松田千絵(ソプラノ)
佐々木まゆみ(ソプラノ) 吉田章一(バリトン) 渡邊寛智(バス) 尾前加寿子(ソプラノ)
野津美和子(ソプラノ) 川西悠紀(テナー)

器楽

新田恵理子(ピアノ) 山城裕子(ピアノ) 小椋順二(ホルン) 重利和徳(ピアノ)
秋山ちひろ(ピアノ) 三島文佳(ヴァイオリン) 杉山清香(クラリネット)、木村恵理(ファゴット)
X ixsa(Vn&Hp ユニット) アザリア弦楽四重奏団 (伊藤明) 大野原愛(フルート)

□追加の出演依頼想定

声楽 ミン・ウンフォン(ソプラノ韓国／ピアノは地元ピアニスト)
器楽 岸本聖華(ピアノ) 兼田恵理子(ピアノ) 松本幸恵(クラリネット) 重道博世(ピアノ)
山本亜美(ピアノ) 稲毛麻紀(ピアノ)

■追加の補

小西繭香(ピアノ) 宮本美香(サクソ) 高旗健次(ヴァイオリン) 神庭智子(コントラバス)
福井蘭(マリンバ) 山内利一(パーカッション) 鳥取バロックアンサンブル 鈴木雪絵(ソプラノ)
小椋美香子(ソプラノ)中ノ森めぐみ(ピアノ) 鳥取雅友会(雅楽) 米子マンドリンオーケストラ
トレジェネ・コンサート 中村理子(ソプラノ) 米澤幸(メゾソプラノ) 森田麗子(アルト)
須々木竜紀(チェロ) 新田裕里子(ピアノ) 河本慎一郎(オーボエ)

□合唱団

女声コーラス「円」 ザ・ラニアルコーラス コール・ウィンドミル コーラス・はわい
倉吉女声合唱団 混声合唱団「みお」 合唱団こさじ コールげんげ
明倫小学校合唱団 成徳小学校合唱団 合唱団わかば

□月例コンサート

当分の間、休止。

アザリアのまち音楽祭2022スケジュール 未定

□常設コンサート

オープニング・コンサート⇒アザリア室内合奏団公演
パープルタウン・コンサート⇒吹奏楽と民謡の集い／中部中学校吹奏楽団
ミュージアム・コンサート⇒アザリア弦楽四重奏団演奏会
ミュージアム・コンサート⇒X ixsa Vn&Hp コンサート
自主公演⇒プレーメン